



車，ナイフ，銃.....頼りになる道具ほど人は惹かれる。  
それは美しいフォルムや質感の良さなどから発せられるオーラを感じるからなのだろうか。  
今回の取材で，そのオーラを出しまくっているツールに出会った。

# SYSTEMA M4-A1 トレーニング・ウェポン

PHOTO BY HOSOYAMA

問い合わせ先 システム 03-3997-8544  
<http://www.systema-engineering.com>



キャリングハンドルは着脱式だ。外せばフラットトップになる。  
◀薄く感じるグリップ周り。実際に薄い。グリップングするとさらに薄さを感じます。この薄さがリアルサイズなのだ。

テイクダウンも実銃同様の。シリンダーユニットやギアボックスも簡単に取り出せるのでメンテナンスがとても楽だ。これも訓練用のツールとしては絶対条件である。



着脱容易な  
ピストン部分。



## SYSTEMA M4-A1 トレーニング・ウェポン

ストックを伸ばした状態



全長：800～900mm  
重量：2,913g(3,377g,アルミバレル)  
3,322g(3,786g,鉄バレル)  
装弾数：120発  
税込価格：126,000円(トレーニングウェポン1周年記念価格)海外価格：1,200ドル  
本体はアルミ製。重量の 内はバッテリー装着時重量とバレル材質

### カリカリ!!バリバリ!!の クールなツール

“システム”，電動ガンなどに対応したクオリティー高いパーツでGun誌臨時増刊“ガンズダイジェスト”のパーツ関連頁を毎年賑わしているメーカーである。

そのシステムが昨年より展開している“トレーニング・ウェポン”。これは簡単に言ってしまうと実際の軍事訓練に使用される事を目的とし

て開発された，トレーニング専用電動ガンなのだ。

であるから，簡単に壊れてしまったりは使い物にならないし，メンテナンスの容易さも絶対条件，重さやバランスも本物に似ていないと戦闘訓練の道具として役に立たない。プロユースの製品に対する要求は厳しい。その厳しさにシステムは応えたのだ。

システムのトレーニング・ウェ

ポンはすでにGun誌2004年2月号でも取り上げたが，今回のモデルはユーザーからの意見を採り入れながら，大きな改良が施されているマイナーチェンジ版である。以前に紹介した初期型とは全くの別物との事。それでは，主な改良点を挙げてみよう。

バッテリー接続後トリガスイッチからの入力を待機する間に流れていた電流を，限りなく0にするように基盤のプログラムを変更。その結



本体の刻印はシステム・オリジナルのアカシ。コンセプトが玩具ガンでは無いので本物の刻印をマネする意味がないのだろう。



アウターバレルはアルミ製と鉄製の2種類がある。重量バランスは鉄製の方が実銃により近い。

果、消費電力が徹底的に低く抑えられ、バッテリーを接続したままで4日以上が作動が可能。

トリガーからの入力に対しての反応スピードを上げるため、CPUをより高性能なものに交換。その結果、ロックタイムが短縮。さらにグリーブギングの向上にも寄与。

動作用・電子ブレーキ用双方とも、使用するFET(トランジスタ)の容量を大幅にアップ。その結果、ハードな使用(セミオートの極端な連射など)による基盤発熱を防ぎ、全体として耐久性が向上した。

チャンバーを新規製作。その結果、ノズルによるBB弾挿入位置を一定化。ホップのかかりを安定化することで、中・長距離でのグリーブギング

▶塗装前のレシーバー、特注モーターそしてグリップ。本当にタイトなので、塗装するときはモーターと本体の接合部分はマスキングしておかないと塗装の厚みで入らなくなってしまいます。またこのモーターのトルクは、既存の電動ガンより40%ほど高い。半端じゃなく磁力が強いので、腕時計近づけると壊れます……気を付けよう。

が向上。

モーターの単体剛性をアップ。その結果、回転数・トルクともに向上、さらに、耐久性がアップした。以上、撃ち比べなければ分からないような、内部チューンが中心である。



標準装備のリトラクタブル・ストックには大きな秘密が隠されている……。バッテリーが内蔵出来てしまうのだ。バットプレートの着脱も容易である。また実際に構えてみると頬付けがしやすい形状になっているのは嬉しい限りだ。



ギアBOX全体の減速比は既存の電動ガンより約4割低い。つまりローギアード設計になっている。



A2、A3も固定ストック内にバッテリーが入る

標準装備のピストン部分とオプション・ピストン部分(写真下)、オプションに変えればパワーアップする。

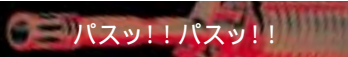


### M16A2

全長：1,000mm  
重量：3,316g(3,694g, アルミバレル)  
3,877g(4,255g, 鉄バレル)  
装弾数：120発  
税込価格：126,000円  
本体はアルミ製。  
重量の内はバッテリー装着時重量とバレル材質

### M16A3

全長：1,000mm  
重量：3,163g(3,543g, アルミバレル)  
3,724g(4,104g, 鉄バレル)  
装弾数：120発  
税込価格：126,000円  
本体はアルミ製。  
重量の内はバッテリー装着時重量とバレル材質



そして、実際に撃ってみると…既存の電動ガンと比べてだが、トリガーのキレの良さには感心した。セミで撃つと判りやすいが「パスッ!!パスッ!!」と心地良い発射音と共にBB弾が的に吸い込まれる。このキレの良さの要因だが、セクターギアの歯数が既存の電動ガンと比べて1つ少ないためピストンストロークが短い事。さらに電子制御にてセクターギアの停止位置を

ピストンラックギアに接触する直前位置で管理している、つまりトリガーを引いてから作動するまでの、空走距離が短いのだ。この号が書店に並ぶ頃には、このキレの良く、バッテリーの燃費も良いバージョンになっているので、感触を味わいたい人は最寄りのガンショップで注文しよう。当然だが、日本国内で販売される物に関しては、国内で行われているサバイバルゲームのレギュレーションの大半に適応したパワーになっている

のでご安心を。

また、システムは先程記したように、コンセプトが実際の軍事訓練用との事なので、今年の1月28日から31日にラスベガスで開催された「ショットショー」にも意欲的にブースを出しており、三度目となる今年は、かなりの反響があったとの事。まさに本物志向のツールが本場で認められたのだ。“本物”を持ちたい電動ガン・ファンにはお勧めの1挺である。



作動を確認しているスタッフ。工場3階には20mのレンジがある。そこで完成品のテストを充分に行い、出荷される。



弱電基盤をさわるので、手袋を着用しての作業

セル・システム(最初の行程から完成まで一人で受け持つ)で組み上げられる「トレーニング・ウェポン」。システムさんの工場が雑誌で公開されるのは今回が初めてである。ちなみにこのM4のパーツ総点数は243点程。一番工程数が多いのがM4だそうだが、完成まで384工程もあるとの事。セル・システムの最大のメリットは完成度の高さだそう。シリアルを見れば誰が組んだか一目瞭然なので、気合いの入れ方が違うとの事。



M4用のバッテリーは7.2V 2400mAhと9.6V 1250mAhの2種類がある。写真の一番右にあるのはA2やA3用のラージバッテリー。撮影時には在庫切れだったが9.6Vもある。



プレミアムBB。トレーニング・ウェポンとの相性はバッチリです。一袋1,050円(0.2g3,000発)。